

オアシス

医療法人 済恵会 広報誌

2025年1月

NO.102



●2-3P 年始のご挨拶

医療法人済恵会 理事長 須藤 雄仁

●7P 診療報酬改定にあたり

副院長 佐藤明美

●4-6P 新人職員の声

●8P 成人式を迎えて

医療法人
済 恵 会

須藤病院

安中市安中3532-5
TEL 027(382)3131

介護老人保健施設

めぐみ

デイサービス

さくら

居宅介護支援事業所

こかげ

訪問介護サービス

ひだまり



年始のご挨拶

理事長・院長 須藤 雄仁

皆様、新年あけましておめでとうございます。2025年が明け、寒さの厳しい日が続いておりますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。当院では、今年の幕開けを元日の救急当番として迎えました。内科・外科合わせて150名以上の患者様が受診され、救急車も多数受け入れました。例年になく多くの受診者数であり、特にインフルエンザの大流行が影響しているものと思われます。インフルエンザのみならず、コロナや一般的な風邪（咽頭炎）・扁桃炎の流行も続いており、皆様には引き続き感染対策を十分に行っていただきたいと存じます。

特に、インフルエンザやコロナ感染者の中で重症化された方々にはワクチン未接種の方が多い印象を受けております。65歳以上の方に適用されるインフルエンザワクチンの公費補助は3月31日まで延長されておりますので、まだ接種がお済みでない方は、この機会にぜひご検討ください。当院では予約なしで接種いただけます。詳細は受付窓口までお気軽にご相談ください。

さて、本年元日で能登半島地震からちょうど1年となりました。災害対策を改めて見直し、さらに強化していく必要性を感じております。昨年4月、私はJMAT（日本医師会災害医療チーム）の一員として、輪島市での災害医療支援活動に従事しました。その際、被災地で得た経験から、災害時にこそ普段から地域で培われたつながりが非常に重要であると実感しました。特に、輪島市の保健師やソーシャルワーカー、ケアマネジャーの皆様が、日常的に築かれてきた人脈や信頼関係を活かし、医療支援や行政サービスのサポートを円滑に進める様子が非常に印象的でした。





当院では日常の診療に加え、退院後の施設入所や在宅介護といった支援にも力を入れています。医師や看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど多職種が連携し、患者様とご家族との結びつきを大切にする取り組みを進めております。これらの取り組みは、日常の安心を支えるだけでなく、災害時の支援体制を強化する基盤にもなると確信しています。

最後になりましたが、2025年が皆様にとって健康で実り多い一年となることを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月14日の須藤病院主催の地域包括ケア会議(1回/月開催)では、4か所の在宅支援診療所、その他協力医療機関をはじめ、安中保健福祉事務所、市の介護医療サービス担当者、10施設以上の介護施設の代表者と共に、各施設や地域全体に必要な防災対策について話し合いました。当地域で特に懸念される豪雨、洪水への対応や、各施設の災害リスク、保健所及び市との連携の重要性を再認識し、共有することができました。今後もこの取り組みを継続していきます。



院内防災を担当しておりますリハビリテーション科の上原です。
当院では初めての防災士の資格を取得させていただきました。
近年、地震や大雨による被害が増えています。災害発生しても病院の機能を保てるように職員への防災教育や防災体制を整えて参ります。
実際に災害が起きてから動くのでは遅いです。お住まいの地域ではどのような災害が予想されるか、どこに避難するのか、蓄えはあるのか等ご家族や近隣の方と考えてみてはいかがでしょうか。

今年度入職職員の声

四月から須藤病院に入職した理学療法士の栗原です。

社会人として入職し、半年が経ちました。慣れない事ばかりで、まだまだ迷惑をかけてしまう事も多いですが、頼りになる須藤病院の先輩方や同期の仲間たちに支えていただきながら仕事に取り組んでいます。またリハビリを通して関わってくださった患者様にもたくさんの元気や力を頂いています。

半年間仕事をさせて頂き、一番痛感したことは社会人としての責任の大きさについてです。学生の頃は、私の言動や行動は自分自身の責任として第三者の目線から評価されることが多かったと思います。しかし社会人になり、須藤病院の職員として働いている中で、自身だけの問題ではなく、組織としての評価や信頼につながってしまいます。この責任範囲の大きさをしっかりと理解し、仕事に取り組むことが大切だと感じています。当たり前のことが当たり前に見える社会人になれるようにこれからも意識しながら頑張っていきます。

また、医療従事者として命を扱う仕事をさせて頂いているという責任の大きさも痛感しています。私の仕事であるリハビリは、患者様の状態を維持・向上させるために行うものです。しかし正しい知識を持って行わなければ、患者様の状態を悪化させてしまう場合もあります。そのようなことが無いように、日々勉強に励みながら仕事に取り組むことが大切だと感じています。多くの知識や技術を持ち、自分一人でも患者様の状態をよく出来るように頑張りたいと思います。

四月に須藤病院に入職したときに、私が考える「理学療法士の理想像」というものを質問されました。それに対し私は「患者様に信頼され、治すことができる理学療法士」と回答しました。半年間が過ぎた今、少しでも私は自分の思い描いた理想像に近づけているでしょうか。患者様からの信頼という面では、日々の仕事の中で接遇を意識して行っています。まだまだ足りていない部分も多いかと思いますが、患者様と関わる機会が増える中で、以前よりはしっかりと接遇ができているのではないかと思います。今後は意識をしなくても正しい接遇が当たり前出来るようになればと思います。また患者様を治すことができるという面では、しっかりと病態を考え、整理してからリハビリに取り組むよう意識しています。また仕事を行っている中で私の興味のある分野も見つかり、より一層勉強を頑張りたいという気持ちがあります。

この半年間で仕事を通して、大変だったことや挫けそうになったこと、嬉しかったことなど多くの経験をさせて頂き、たくさんのことを学ぶことができました。冒頭でもお話をさせて頂きましたが、須藤病院の先輩方や同期、患者様方の支えがあるからこそ、一生懸命取り組むことが出来ています。私に関わってくださっている皆様に感謝をしています。これからもっと多くの経験や勉強を積み、少しでも私の思う理想像に近づけるよう、また社会人、医療従事者として責任が果たせるよう日々精進してまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。

リハビリテーション診療部 相川

私が須藤病院へ就職させて頂き、半年が経過しました。私は学生時代、須藤病院に実習でお世話になり今年度より就職させていただきました。

須藤病院へ就職を希望した理由は、リハビリテーション科職員の方々の雰囲気や疑問に思ったことを質問しやすい環境にあったこと、多職種の連携が密にとれていること等に魅力を感じたためです。

私は現在、急性期の一般病棟においてリハビリテーションを実施しています。入職した当初は治療を行うことに恐怖心や不安を感じていました。患者様の命を預かることへの責任、私たちが行う治療がもたらすことの大きさなど学生の時とは違う医療従事者として考えなくてはならないことに多く悩みました。今まで勉強してきたことが役に立ったと感じる場面もあれば、なかなか教科書通りにはいかないことも多くありました。日々の臨床を経験する中で、患者様の病態を診るということより患者様の症状や生活に目を向け一人一人に応じた対応が必要なことを学びました。

また、急性期においては治療とリハビリを同時進行で行い病態に応じてですが治療終了に向けて患者様の機能をなるべく病前のレベルまで近づけていくことが必要です。また退院先の検討等も必要になってきます。私はリハビリに対してもまだ勉強不足であり、患者様の治療の中でリハビリテーション科の職員だけでなく多職種の職員にも助けをいただきながら臨床を実施することができています。須藤病院は同じ病棟にソーシャルワーカーや看護師等が配属されているため、患者様の状態の変化についてすぐに情報共有を行うことができます。以前から魅力に感じていた多職種との連携が密にとれる環境の中で患者様のリハビリを実施することができています。

半年間、臨床を行い患者様に感謝されることの嬉しさや、やりがいを感じる場面も多くありました。その一方で病態の理解に悩んだり私の実施するアプローチの効果がうまくいかないことで落ち込んだりすることも多くあります。ですが、分からないことを質問しやすく心配し声をかけてくれる先輩方に指導していただき毎日の治療を行うことができ、現在はとてもやりがいを感じて勤務することができています。また入職してから興味のある分野をみつけることができました。これからも継続して勉強を行い、一人でも多くの患者様の治療に携わることのできる医療従事者を目指していきたいと思います。

医療事務 荒井

須藤病院に入職してから変わったことは、学生から社会人として働くようになって報連相の大切さ・効率的に働くこと、笑顔を意識することを考えるようになったことです。

多職種大人数の病院勤務は、学生時代にバイトをして少人数の中で働いていた以上に、業務の一つ一つに人との連携をとることの大切さを感じます。さらに報連相を怠らず効率的に動くことが、患者さんの素早い診断治療につながります。そして笑顔を意識するのは、感染対策のためマスクを着けていることで顔の半分しか見えないからです。病院に来院した患者さんを最初に対応する医療事務として、笑顔で対応することの重要性を理解し、マスクを着けていても笑顔だとわかるような対応をこれからも心がけていきたいです。

そして、医療事務とは想像以上に大変でやりがいのある仕事だと感じました。そう思ったのは受付で患者案内をしているときです。最初のころは患者案内が特に難しかったです。曜日や週ごとに変わる医師や診察室、検査の順番や案内する場所など覚えることがたくさんあり、受付混雑時などは特に大変だと感じました。しかし日々の先輩方からのご指導で、少しずつできることが増えました。最近とてもやりがいを感じたことは、患者案内で患者さんから感謝の言葉や応援の言葉をいただいたことです。その瞬間が一番うれしく、感謝・応援が自分の成長を身を感じることで自信にもつながったからです。

これからも、先輩方から学んだ知識と今までの経験、職場での報連相を大切にして、患者さんの診断治療のために日々研鑽していきます。

新人看護師の平田です。

私が須藤病院に入職してから約7ヶ月が経ちました。

最近では職場の環境に慣れ始めましたが、初めのうちは患者様や病院のスタッフに対して話しかけるタイミングがわからず、緊張してばかりでした。現在は入職したての頃と比べると、患者様の生活の援助や医療行為等できることが増え始め少しずつ自信がついてきました。先輩方から業務を任されることや、患者様から頼りにされることがあると、信頼してもらっていると実感でき働く上でのモチベーションにつながっています。

しかしまだまだ未熟な部分も多くあります。病棟での業務は医療チームで動いています。私はまだ自分の業務で精一杯で、看護師の先輩方や他の医療スタッフの方々からフォローや指導をしていただいております。また、患者様からも「焦らないで、大丈夫だよ」と新人の私に気を遣っていただいたり感謝の言葉をいただいたり、患者様から精神的に支えていただいていることが多くあります。

自分一人ではなく様々な人に支えられて働いていることを忘れず、職員の皆さんや患者様に成長が見せられるように、これからもがんばっていきたいと思います。

医療事務 新井

入社して実際に働き、今までは全く知らなかった病院の裏側を知り感銘を受けました。患者さんに安全で丁寧な対応をするために、当たり前前はことは当たり前、その他色々なことを心がけながら、患者さんには分からないところで努力している先輩方の姿がとても印象的でした。

働き始めて8ヶ月が経ちますが、未だに医療事務として働く上で難しいと感じていることがあります。それは患者さんとの関わり方です。病院には診察や検査、健康診断、面会など様々な目的で来院されます。それぞれの方が全く違う気持ちを抱いて来院される中で、どう接することが正しいのか常に難しいと感じています。その上で医療事務として自分ができることを考えながら接しています。これからも、常に患者さんのことを第一に考え接している先輩方を見たり、教えていただいたりして多くのことを吸収しながら患者さんとよいコミュニケーションをとれるよう努めたいです。

入社してすぐは、早く慣れなくてはいけないと焦る気持ちもあり、毎日緊張していましたが、教えてくださる先輩方の丁寧な指導や何気ない会話のおかげで少しずつ慣れていくことができました。最近ではできることも増えてきました。まだミスをすることもあり、なかなかうまくいかないこともあります。診療報酬についての勉強やタイピングのスピードを上げることなど日々たくさん努力し頑張っていきたいと思います。

診療報酬改訂にあたり

副院長 佐藤明美

厳しい寒さが続きますが、皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。さて令和6年6月は医療福祉関連において、診療報酬、介護報酬、障害福祉報酬のトリプル改定の年にあたりました。これはどんなことかといいますと、医療機関で医療行為を受ける時に、その対価として支払う費用が診療報酬です。厚生労働大臣が定めた医療行為それぞれに点数があります。自己負担金は患者さんが支払い、残りは加入している医療保険者が払う仕組みです。診療報酬を正しく理解して請求することがもとめられます。

当院の3階一般病棟は急性期一般病棟1という施設基準を届け出ています。これは看護配置(病棟に配属する看護職員の数)が他の基準に比べ一番多い病棟になります。急性期病棟では、多種多様な医療行為が行われ、安全・確実に実施する必要があります。

そのために看護職員を充実させて、手厚い看護の提供を目指しています。今年度の改定も厳しいものでしたが、急性期病棟を維持することができました。今後も当院は安中市内で手術等急性期治療を担い、市民の皆様が住み慣れた地域で安心して入院生活が過ごせるよう努力してまいります。どうぞこれまでと変わらぬご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。



病院公式SNS是非ご覧ください

※当院SNSに掲載する情報の正確さについては注意しておりますが、公式な情報については当院のホームページをご確認ください。

2025年 成人式を迎えて



和田 一般病棟 看護学生

無事成人式を迎えることができました。新成人として、自分の発言や行動に責任を持ち1日1日を過ごしていきたいです。これからも勉学、仕事との両立に励んでいきたいと思います。



萩原 一般病棟 看護学生

沢山の人に支えられ成人式を迎え、感謝を忘れずより成人としての自覚と責任を持ち仕事と勉強に励み、病院に貢献できるよう頑張ります。

